

農園通信

2022年9月・10月

発行・問合せ先: 島本町農業振興団体
協議会・町民農園部会 福田

fukuda-ka@amail.plala.or.jp

アブラナ科の栽培

夏野菜は、あまり虫の害を気にしなくても良かったですが、冬野菜は、特にアブラナ科の虫害が大変です。対策は、まず、敵(虫)を知ることです。

《アブラナ科の野菜》

大根、カブ、白菜、水菜、小松菜等の葉物、キャベツ、ブロッコリー等

- *白菜の虫害が一番大変です。農薬を使うか或は使わない方は白菜を作らないのも1つの方法です。(労多くして功少なし)
- *大根、小松菜は植える時期を考えれば、比較的虫に強いです。
- *キャベツ、ブロッコリーは、蝶に卵を産み付けられなければよいので、防虫ネットで下までしっかり囲って蝶の侵入を防げば、農薬なしでも出来ます。(個人の色々な対策は次号で紹介)

希望する農園はどんな農園

希望する農園=通うのに近く、土がふかふかで、水はけが良くかつ水持ちが良い、水場が近い等々…しかし、都合の良い農園はなかなか見つけにくいですね。ならば、いま使える農園を工夫して利用するのも腕の見せ所です。

＜湿気る畑と乾く畑＞

野菜作りは土の性質に合わせて行います。特に湿気る畑と乾く畑では全く方法が異なります。一般的には湿気る畑は敬遠されがちです。特に畑の横が田んぼだと水が浸み出してきます。しかし、水の出口(排水路)を考えて、うねを高くしてやれば(20cm以上)、たいていの野菜は出来ます。キュウリは「いやいや」と言いますが一応出来ます。トマトも何とか大丈夫。カボチャ、マツカはしんどそうです。逆に、ナス、エダマメ、里芋は大喜び、うね下に水があるくらいの方が良く育ちます。足元に水があると作業はしにくいですが、大変な夏の水やりの苦労はないです。その畑に合う野菜を考える。そして、どの程度の水分量ならいけるか、微妙なところを見極めます。農地を大事に賢く利用しましょう。

「半農半X」の半農

前号では「半農半X」の「半X」をお聞きしました。今号は「半農」。(裏面)

農園利用希望の方へ……農園の空き情報のお知らせ

＜問合せ先＞島本町農業振興団体協議会・町民農園部会
(福田) fukudaka@amail.plala.or.jp

シンクイムシ(ハイマダラノメイガ)
アブラナ科の生長点を食害

白い数ミリの幼虫



ダイコン(サル)ハムシ

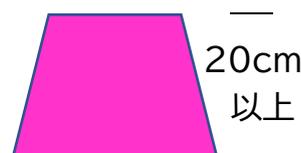


黒色 数ミリ 成虫, 幼虫とも食害
ネキリムシ(カブラヤガの幼虫)



根と茎の境界をかじり
苗を茎元からちぎる

高うね



うねとうねの間の土を
うねに上げて高くする。

「半農半 X」の半農 (表面の続き)



■あなたにとって農とは

(Fさん) 畑づくりを始めて25年、子育てはストレスも多かった！畑での一人の時間と空間、無心に草を取り土を耕す、スーツと気持ちが軽くなりました。以降いろいろな畑を経験しました。いろいろな野菜の成長する姿を観察してきました。野菜は、自分の育つ条件に合わなければ全く出来ないし、合えば、すごい生命力で育ちます。生きるということにストレートで正直です。“生き生きしているかどうか”がすべて、命って輝いているのですね。農地は、自然と命を教えてくれる興味付きな場所です。

(Wさん)

今年はキャベツ、キュウリ、カボチャ、ウリ等を種から育ててみました。近隣の方々からも種や苗を頂いたので、多品目を作ることが出来ました。貴重なアドバイスや野菜も頂いたりして、見守り支えられたことも励みになりました。

失敗した作物もありますが、まずまずの収穫があり楽しめています。農園での顔馴染みも徐々に増えてきて、和やかな挨拶も野菜と共に心身の糧、潤いとなっていると思います。

(Tさん)

仕事が忙しいので畑には少しの時間しか来れませんが、職場の人間関係はストレスが多く、畑で野菜の世話をしているとホッとします。

(Oさん)

農作業に励むと自然相手の仕事だから不思議と気が晴れます。

(Sさん)

私にとって「農」とは、それが「業」でないことに大きな意味を持ちます。耕す面積は3ヶ所合せて約25坪ですが、そこから自分なりの空間が広がっていきます。

耕す土地の属性から育てる作物を考える、これも農の楽しみの一つです。田圃に接した場所には今年には里芋を植えました。(前年はショウガ、ナスビを植えたこともあります)。

耕やすことはその場所の生態系を変えてしまうのではないかと考えるようになり不耕起栽培にも興味を持っています。字の成り立ちだけからすると、こちらは「農」とは言わないのかもしれませんが。

(Aさん)

連れ合いのボケ防止、自分のボケ防止。年を取ると外に出る機会が減り、畑に来るのが唯一の楽しみです。年をとってもできる仕事で、愛着を持つことができます。生活が人生が豊かになります。

(Hさん:京都市南丹の百姓)

農村、農業現場は悩ましいことだらけです。しかし、逞しく育って行く稲やマメや野菜たちの姿、田の水の中を泳ぐ虫たち、それを食べる毎日田んぼに来るカモやサギや時としてコウノトリ、田の中に亀さんの足跡を見つけたり、この前まで家の前の小川に蛍が飛び最近朝の田んぼで稲につかまって羽化する赤とんぼ、朝露が降りると無数のクモの巣が田んぼ一面朝日に光ります。

おいしい空気を呼吸して、自分で育てた安心できるお米を毎日食べて、定年もない、人から命令もされない、体が動く間は大好きな野良へ出て好きなだけ働ける、それが意味、人様のお役に立っている。以前は生きるために必死で働いていましたが、今は皆さんに支えられ、「私は世界一の幸せ者」の暮らしです。



旬の一品
(Kさん)

青しそのジュース : 赤しそでなくても出来ました。砂糖とレモン汁でさっぱりです。
青しその佃煮 : 軽く湯がき、ジュースで絞った紫蘇も一緒に、酒、砂糖、みりん、だし醤油、お酢、鰹節、ゴマと煮ました。紫蘇が沢山できる時だけの贅沢な食べ方ですね。